

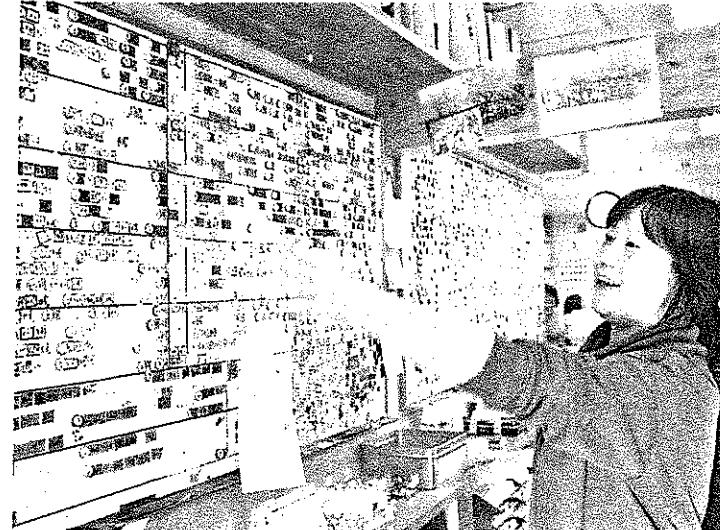
報酬削減

利用抑制

2000年4月に介護保険制度が始まってから、まもなく20年を迎える。制度開始時から変遷を見た介護事業者は、この20年間は「変質」の歴史だったと振り返ります。（北野ひろみ）

介護

**STOP
破壊**



1週間の訪問介護の予定を確認するNPO法人「暮らしへネット・えん」の職員

「事業者が受け取る介護報酬は、開始当初が一番高かったという異常な事態で、「自立」の名のもと連続改悪

す。改定のたび報酬が下がるままでは、まともな運営はできません」

保険制度「変質」の20年

埼玉県新座市で、障害のある人へのボランティアからスタートして約30年、訪問介護やグループホームなどの介護サービスを担つている特定非営利活動（NPO）法人「暮らしへネット・えん」の小島美里代表理事（介護支援専門員）は、厳しく指摘します。「介護保険が始まつてからの20年は、『ケアは在宅で』といいながら、自宅で生活するための在宅サービスを締め付け続けた20年でした」

家族が担つてきた高齢者の介護を「社会化」し、介護が必要になつても「安心」して暮らせるようにするといったって導入された同制度。この間、5回の法改定と6回の報酬改定で進められてきたのは、「予防」と「給付の効率化」の名のもとに、施設入居者の食費・居住費の自己負担化、原則1割の利用料負担の一部2、3割への引き上げな

ど、利用者への負担増と利用抑制をもたらす改悪の連続でした。

介護報酬の改定の経過		
改定年	報酬改定率	実質
2003	-2.3%	-2.3%
06	-2.4%	-2.4%
09	3.0%	3.0%
12	1.2%	-0.8%
15	-2.26%	-4.48%
18	0.54%	-0.5%

※12年は処遇改善交付金（国費）を介護報酬に編入し実質マイナス。15年は処遇改善加算などを除けば実質大幅マイナス。18年は給付の適正化でマイナス